

『第14回日露医学交流国際シンポジウム』
報告書

(平成26年6月5日～6月6日)

(於：サンクトペテルブルグ)

公益財団法人 日露医学医療交流財団
常務理事 酒井 章

6月5日（木）第14回日露医学国際シンポジウム

9:00：学長室でのミーティング：Bagnenko 学長、Al-Shukri 副学長、Borovets 教授が同席した。財団から北村理事長代行、酒井常務理事、大阪大学は金田学部長、総領事館から山村総領事、大崎領事が出席した。

初顔合わせとなるため、お互いの紹介の後、大阪大学とサンクトペテルブルグ国立第一医科大学の交流協定書署名に関して最終確認をした。大阪大学から記念品の贈呈があり、ついで、サンクトペテルブルグ国立第一医科大学から日本側参加者に記念品が贈られた。



左から Bagnenko 学長、Al-Shukri 副学長、山村総領事、大崎領事、金田学部長、北村財団理事

9:30：シンポジウム開会式

会場は Yashin 教授の心臓外科教室があるビルディングの講義室。同時通訳ブースを備えた 250 人は収容できる立派な講義室で会場には既に 100 名近い方が集まっていた。日本センターの松原所長を始め、医療関係の在留邦人の方も参加していた。

開会式は Bagnenko 学長の司会で始まり、学長、北村財団理事長代行、金田医学部長の開会に向けた挨拶、山村総領事の祝辞を受け開会式を終了した。



写真は財団を代表して開会の挨拶を述べる北村惣一郎・財団理事長代行

次いで、金田医学部長と Bagnenko 学長が学术交流協定書に署名し、二人の握手を以って大阪大学医学部とサンクトペテルブルグ国立第一医科大学の交流協定が正式に締結され、会場から万雷の拍手を受けました。



10:10 シンポジウム第一セッション

特別講演として、大阪大学から澤心臓外科教授 (Stem cell therapy using cell sheets for sever heart failure)、金田医学部長 (Development of virosome- mediated cancer therapy)、ロシア側から Afanasiev 小児腫瘍・血液学・移植センター長 (Stem Cell - from bone marrow cell therapy)、Al-Shukri 副学長 (Antigen expression as an imaging target in prostate cancer)の講演が続いた。各講演ごとに質疑応答があり、日本側、ロシア側共、活発な質疑応答で予定時間を大幅に超す程であった。澤教授、金田教授の講演は大きなインパクトを与え、質問者が何人も熱心に討論をつづけた。

昼食は学長室食堂で学長、副学長、Yashin 教授も参加してロシアの家庭料理を味わった。昼食後、澤教授はヤーニス夫人の車で空港へ、帰国の途についた。

13:10 シンポジウム第2セッション

悪性腫瘍をテーマとしたセッションで日本側は奥村教授 (Current status and outcome of surgical treatment for lung cancer and thymic epithelial tumors in Japan)、森教授 (Less invasive surgery for colon or stomach cancers) と (Cancer stem cell in digestive organ cancer) の講演があった。ロシア側からも対応した発表が4題あり、それぞれ活発な質疑応答、討論があった。

16:00 シンポジウム第3セッション

質疑応答が活発に行われた為、第3セッションは予定を大幅に遅れ始まった。循環器をテーマに行われた。日本側から北村財団理事 (国立循環器病センター名誉総長) の (Pediatric coronary bypass surgery: Development and effects on survival, cardiac events and graft patency for children with Kawasaki disease coronary involvement), 山口助教の (Important issue to improve left ventricular assist device treatment) の講演があった。ロシア側からは2題の発表があり、各演題とも、双方から活発な質疑応答があり、予定を大幅に超過し終了した。

この日は各セッション毎で、参加者の入れ替わりが多く、延べ人数で200名近い参加者があった。

サンクトペテルブルグ国立第一医科大学主催夕食会

19時から市内の見晴らしの良いビル最上階のレストランで始まった。先方は Bagnenko 学長、副学長、Yashin 教授、国際連携室のスタッフ、シンポジウム発表を行った先生方が参加され、当方は帰国された澤先生を除き、全員が参加した。学長から大学間交流協定書の締結を喜ぶ祝辞と共に、シンポジウムが活発に行われ、盛会で有った事を評価する発言があった。会は発表された先生方も交え、和気あいあいと進行した。学長から、保健省の急用でモスクワ出張となった為、明日のシンポジウムは出席できないとの話が有った。Bagnenko 学長には、昨年秋の大阪シンポジウムに参加できなかった事は残念であり、是非大阪大学を尋ねて欲しいと話した。短期間 (3日間くらい) の訪日であれば可能とのこと、来年度にも財団の事業として検討する必要を感じました。

6月6日 (金) 第14回日露医学国際シンポジウム2日目

9:30 シンポジウム第4セッション

臓器移植、腎臓・泌尿器学をテーマとしたセッションで日本側は高原教授 (Organ transplantation in Japan)、福嶋教授 (Donor assessment and management for maximizing organ availability), (Alternative surgical strategies for organ transplantation - xenotransplantation and left ventricular assist support) の3題を発表した。ロシア側からは臓器移植関連1題と泌尿器科関連1題の発表があった。昨日に続

き、活発な質疑応答が有り、時間をオーバーする形で終了した。参加者は昨日より少なく、50～60名位であった。

今回のシンポジウムは延べ二百数十名の参加を得て行われ、各講演に関する質疑応答は活発で、日本側の先生方もロシア側発表者に対し必ず質問に立ち、質疑を活発なものに盛り上げていただき、その努力に感謝いたしました。

昼食を再び学長室食堂で頂いた。森先生は朝、ヤーニス先生の車で空港に向かい帰国の途についてた。

15:00 ロシア国立研究医科大学副学長との会談

Lozinsky 副学長、Diana 国際連携室室長が参加した。保健省予算でロシア国立研究医科大学を主体とし、2020年完成予定の先端医療・研究センター設立構想に関して概略説明を受けた。日本からの先端医療機器、研究成果の導入とロシア人医師・専門家の日本での研修を含む、大きなプロジェクトへの財団の協力を要請された。財団として協力して行く事を明言した。

スコルコボ基金が計画するプロジェクトとは全く別個のものであるが、有る意味共通する部分も有り、財団としては同時進行で事業を進めてゆく事が可能と考えられた。いずれにせよ、もっと具体化した時点で話し合いを深める事を確認した。7月に来日する際は、筑波大学の粒子線センターを含め訪問する事を勧めた。東京滞在中は東京女子医科大学と早稲田大学の共同医療・工学センターの見学も勧めた。

京都大学との学術交流協定に関して質問した所、交渉は継続しているとの事であった。実現に向けて引き続き努力するよう伝えた。協定書のたたき台をメールで送るとの事であった。

16:00 スコルコボ基金との会談

Kiril バイオメディカル・クラスター会長、Tkachenko 同キーパートナー部長の2名が参加した。冒頭、財団とは交流協定を結んでおり、我々の事業に協力して欲しいとの強い要望があった。財団は具体的な案件に関しては積極的に協力する事を表明した。7月にTkachenko氏が訪日する時、日本の研究機関、製薬会社（第一三共）と会い、ビジネスの話を進めたいとの要望があり、協力を約束した。

スコルコボ基金として何か手伝える事が有るかと質問され、財団の行う学術交流に関し、ロシア人専門家、医師の航空運賃を財団が負担しているが、スコルコボ基金で負担していただく事は可能かと質問した。スコルコボは政府基金である事から、学術交流のため、個人の航空運賃を負担する事はできないとの、回答であった。

19:30 財団答礼パーティ

市中心部の Golden Garden Hotel 内に有る『ドストエフスキーレストラン』を借りきり行われた。日本側はシンポジウム参加者全員、山村総領事、大崎領事、松原ジャパンセンター所長と事業部長のゴンチャレンコさん、現地医療関係者の鬼島夫妻を迎えた。ロシア側は Al-Shukri 副学長、Yashin 教授夫妻を始め、学長室、国際連携室のスタッフ、シンポジウム講演参加者、ヤーニス夫妻、そして、スコルコボ基金の2名を含め、40名の参加を得て行われた。

北村財団理事の挨拶、山村総領事のご祝辞、金田医学部長のご挨拶と乾杯の音頭で会は始まり、ロシア側からの挨拶等が続き11時まで皆様歓談され、会を楽しむ事ができた。

6月7日（金）

疲れも目立たず、皆様元気で無事帰国しました。

以上